



4月の学級づくり

今年度も残りわずかとなりました。先生方におかれましては、様々に工夫を凝らしながら、コロナ禍での教育活動に日々取り組まれておられることと思います。年度末の大変ご多用な時期となりますが、どうかご健康に留意され、一年間のまとめと新年度の準備をいただくようお願いいたします。さて、春休みは一年間をスムーズに進めるための、大切な準備期間です。学級びらきに向けて、万全のスタートを切ることができるように、見通しを持って仕事を進めたいものです。

1, 鉄は熱いうちに打て

4月になって、新しい学級を受け持ちます。烏合の衆で、群れがあるにすぎません。最初の三日間で学級を組織します。なぜなら、始業式から三日間だけは、どの子ども「礼儀正しくおこらう」だからです。

経験の浅い先生は、「みんないい子だ。私でもうまくやれそう。この状態はずっと続く。」と、誤解します。大切な三日間を、準備不足や見よう見まね、思いつきの活動で浪費してしまうと、静かだった教室は、段々と崩れていきます。連休明けには、更に激化します。

ベテランの先生は、この三日間で、学級を組織しています。この三日間のために、ほぼ一週間を準備にあてています。大切なことを選び、学級の組み立てをします。例えば、新しいノートをつくり、自分の計画、見通し、クラスの基本方針、先生が叱るとき、当番や係などのしくみ、一日目にやること、二日目にやること、三日目にやること、子どもに話す言葉を全て書き出しています。

2, 学級びらきで大事なこと

学級びらきで大事なことは、子どもたちに安心感を与えることです。ただし、手品やパフォーマンスで笑わせ、「面白い先生でよかった。」という安心のさせ方ではありません。「教室に秩序があること」「先生が一人一人を大事にしてくれること」「先生が、子どもの頑張りに気づき認めてくれること」を実感させることによって教師を信頼し、安心させるということです。

3, 「教室の一日」をつくる

初任者は、最初から「授業をどうするか」だけを考えています。教育実習の授業は、すでに出来上がった学級で行っているからです。また、教員養成の大学で教えられることは、ほとんど教科・領域についてのことが多いです。教科については、指導案の書き方を含めて、数多くのことを教えられてきます。それに比べて、「学級づくり」、「学級経営」などについては、ほとんど教えられていません。

ところが、学校現場へきて、クラス担任をすれば、すぐに必要になるのが、「学級づくり」です。最初に、どうしても必須のことは、「教室の一日」をどう組み立てるかということです。そういう時、「教師が一週間休んでも子どもたちが快適な学校生活を送っている」状態を思い浮かべます。朝登校したら、子どもは何をするのだろうか、窓を開けるのは誰なのか、授業が始まるまでの間は何をするのか、忘れ物をしたらどうするのか、朝自習をどうするのか、朝の会は誰がするのか、給食当番は誰がするのか、掃除当番は誰がするのか、誰かがけがをしたらどうするのか、雨が降ったときどんなことをするのか・・・こうすると、さまざまなことがイメージできます。生活上どうしても必要な組織が見えてきます。例えば給食当番は、班、グループなどを作って交代にします。また、「黒板」「落とし物」などの係りも必要になってきます。このような、子どもの生活のすべてが、子ども自身の運営によって、快適にすごせるために、役割の分担が必要になってきます。それが、「学級のしくみ」です。「学級のしくみ」を作るのは、教師の責任です。

しかし、それらについては、ほとんどが分かっていません。慌てて、学年主任の先生に「どうしたらいいのでしょうか?」と聞きに行く初任者がいます。もうここで、他のクラスより一歩遅れることとなります。学年主任の先生も、自分のクラスのことで忙しいです。聞かれたことは、要点だけを教えることとなります。でも、それでは具体的なやり方に届きません。何度も聞きに行くわけにはいかないので、つつい昔の自分の小中学校のことを思い出して、見よう見まねで対応する以外になくなります。結果は明らかです。ぐちゃぐちゃになったり、空白の時間ばかりが多くなったりして、クラスが停滞してきます。

4, 学級の核となる三つのルールを伝える

ルールは、子どもたちが安全に安心して、学びやすく過ごすために存在します。教室のルールがはっきりしないと、子どもたちはどう行動してよいかわかりません。一方、ルールが多すぎると混乱してしまいます。

大事だと思う三つのルールを担当がもつようにします。子どもたちと一緒に学級のルールをつくる先生もいますが、そのような先生は指導力の高い先生で、学級経営にまだ自信がない先生は、先生側から提案した方がよいです。特に、低学年はあらかじめ準備して学期の最初に伝えるほうが子どもたちは安心する傾向にあります。三つのルールの決め方は次のような方法があります。

- ① 教師として許してはいけないことを考え、それをルールにします。
- ② 一年後にどんな教室になったらよいか考え、ゴールイメージからルールにします。
- ③ 周りの先生に「クラスで大切にしていることは何ですか」と、どんどん聞きます。
いいなと思ったものをルールにします。
- ④ 有名なルールから自分の価値観に合うものを選びます。

(例) 自分を磨く、友達を大切にする、人のことを大切にしておく、命に関わる危険なことをしない、他人の不幸の上に自分の幸せを築かない、三度は注意されないようにする、時間を大切に、物を大切に、人を大切に、言葉を大切に、全力を尽くす、感謝、今を生きる、約束を守る、耳と目と心で聴く、挨拶をきちんとする、間違いをおそれない、自ら考えて行動する、反省できる、早寝早起き朝ご飯、忘れ物をしない、世のため人のためになることをしよう、先人に学ぶ、必ず誰かに相談する、笑顔で過ごす、腰を立てる(姿勢をよくする)、一日一善、正直、夢(志)、強みで勝負する、自分をコントロールする、やり抜く、人によって態度を変えないなど、ルールは様々です。クラスの実態に応じて、選択してみてください。

5, 三日間チェックリスト

<input type="checkbox"/> 子どもの名前を覚えます	① 出会う前に名前を覚える ② 三日以内に顔と名前を一致させる ③ 三日以内に「名前をよんでほめる」 ④ 兄弟関係も覚える ⑤ 同学年のほとんどの名前も覚える	<input type="checkbox"/> 当番・係・掃除・給食のルール	当番は一人一役の仕事内容と仕事の時間帯の設定。係は何をするのか、活動させる時間、活動を報告させる時間の設定、係ごとに掲示する場所の設定。掃除は、手順、ほうき、雑巾などの順番など、実際に正しい方法を見せたり、やらせたりする時間も確保します。給食当番編成と仕事分担、配膳の仕方、おかわりの仕方、片付けの仕方、待ち方。以上の活動をチェックするしくみ。教師が一週間出張でなくても子どもたちだけで動けるしくみをつります。	<input type="checkbox"/> 授業開き	知的で楽しい授業の準備をし、その中に確かな学習規律を入れます。「音読の声の大きさ・スピード」「姿勢」「文字の丁寧さ」「ミニ定規を使う」「ノートはゆったりと書く」など。
<input type="checkbox"/> 学級目標・方針	どんな子どもになってほしいのか、どんな学級にしていけるかを語ります。出会いの演出と語り一年を左右する覚悟で臨みます。	<input type="checkbox"/> 学習用具の徹底	筆箱の中身の徹底とその趣意説明を毅然と示します。道具袋、ロッカーの使い方も確認します。	<input type="checkbox"/> 学習準備の方法	次の時間の学習準備をしてから休憩させます。
<input type="checkbox"/> 朝の会・朝自習等のやり方	提出物の出し方、日直の役割の明確化、説明だけでなくシミュレーションを行い、子どもたちだけでできるように徹底します。	<input type="checkbox"/> 教科書・ノートの使い方	教科書の開き方、家庭での音読方法、ノートの書き方指導をします。一時間の中で何回もノートチェックを行い、できていない部分は必ずやり直させます。	<input type="checkbox"/> 年度初めの学力調査(最初の一週間以内)	前学年の漢字・計算の習得率など。市販テストについているものを活用してもよいので調査し必ず記録しておきます。
<input type="checkbox"/> 班構成	班の役割、席替えの方法などを明確に説明します。				

6, 若い教師へ

複数の教育書を購入しましょう。心と時間に余裕がある春休みに、教師の仕事の全体像が示されている本を多数読み、仕事のイメージをもちます。本に載っているアイデアのうち、できることから取り組みます。準備物が部屋に増え、ノートのページが埋まるごとに、こなした仕事量が一目瞭然になり、自信につながります。簡単な仕事に先取的に取り組む姿勢も身に付きます。

令和3年度も教育研究所の各事業に御理解、御協力を賜り感謝申し上げます。各学校におかれましては、法定研修(初任者研修・中堅教諭等資質向上研修)やその他研修、各種講座への職員の派遣等への御配慮ありがとうございました。また、校内における御指導・御助言をいただき、充実した研修になりました。御協力ありがとうございました。令和4年度の研修・講座につきましても、研究所所長をはじめ指導主事一同、教職員の資質向上を目指して取り組んでまいります。今後ともよろしくお願い致します。